夕刊
磐城新聞
六月八日發行
（日曜祭日翌日休刊）

天氣豫報　小名濱測候所發表
今晩も明日も北東の風曇時々小雨

旅に見る子供（一）

松田いせ路

〇月〇日。湯の峰温泉をたつ。自動車が山峡の道を進むにつれ、前方に青白い熊野川が見えて來た。しんしんと繁つた熊野杉の梢越しに見える川もきら〳〵と朝日が光つてゐた。プロペラ船の待合所。客は僕一人。他は孫の人や土地の人、話は自然と戰爭のことゝなる。ゆつくり行く。

船は昨日の船。僕は昨日と同じ場所に席を占めて眺め入つた。上りの時は名勝毎にプロペラの唸りを止めて案内孃が說明したが、今日はその事がない。たゞ川岸の所々に待つてゐる土地の人を乘船させる爲、船は時々停船しなければならなかつた。新宮まで行くのであらう、母を送つて來た子供は『進軍の歌』の口笛を止めて、お土產を願んでゐた。

二時間半で新宮着。紀伊中線の列車は頗る旧式ではあるが乘客は滿員。而も列車は日に八本、その間を新宮勝浦間は、二輛連絡のガソリンカーが日に九回往復してゐるのだ。

私は那智驛で下車、バスで那智山に向つた。

平凡な田舍街道がだん〳〵山道にかゝる頃、正面に瀧が見えて來る。やがて車を下りて飛龍神社（御神體は那智瀧）に參拜して、瀧壺の所まで行く。サツ〳〵〳〵といふ瀧の響だ。水は途中の岩に碎けて飛沫となる爲、瀧壺は極く淺いが、あたりには一面に流れた空氣が漂つてゐる。半徑三〇程もあるかと思はれ、頭きれいに見ることが出來、私は汽車の時間を氣にしながらもかなり長くそれを見てゐた。

・那智神社は御修理中であつた。假殿で參拜する。境内も、社殿も極く小さいが大南木、社殿の後に續く川々、前方に見る熊野瀧など一層に神々しさを添へてゐた。青岸渡寺の豪壯さは一寸意外の感を抱く程であつた。ここからは瀧が目の下に近くなる。水音は聞えないので全く白布を懸けたと言つた感じだ。

思ふ汽車には乘れず私は致方なく、ガソリンカーで勝浦に下りた。そこでは新宮外港としての盛かる程港、活氣を見ることが出來た。又紀の松島といはれてゐる美しさを樂しむことが出來た。私は小高い山へ登つた。灣内の景色と、港から見えるといふ那智瀧を見ようと思つたのだ。けれど瀧は遂に見ることが出來ずにその方向の山に萬字巴といふ大きな印を見ただけで山を下りた所が何時の間にか登り口の所に十名程の子供達が一列に並んで日向ぼつこをしてゐた。

私は一寸きいてみた。

『瀧が見ゐると言ふが、どこから見ゐるのかね』

『こんなどつこから見えねいだよ』と二人が答へた。しばらくして別な子が『俺らの學校からならよく見ねるがな』と言ふと、今度は口々に『さうだ〳〵連れてつてやらうか』とまで言ふのだ。でも時間がなかつた。那智山の方に見えてゐる萬字巴の印は、那智山の奧の院妙法院であることを聞いただけで驛へ戻つた。

の子

生方美智子

金魚屋さんから
買つてきて
お池に　はなした

かめの子よ
甲らはかたい
皿チヨツキ
お手々も　おくびも
皿のした
朝から　ぐつすり
一いびき。

その日〳〵

〇

澁柿の花ちる里と成りにけり　蕪村

6月9日

△英作家ディケンズ歿（一、八七〇）
△米國日露の講和勸告す（明治三八）△佛新內閣は王國合併否認を表明（昭和一一）

小名濱港竣工式席上

珠雲　小野勝平

沖動多年此竣工
官民一致績何雄
頌聲滿港海如沸
無數汽船旗旭紅

新刊紹介

△ローマ字嘉納先生記念號（一部二十錢東京市京橋區新川二の二日清製油ビル內ローマ字ひろめ會）

講談　隱密小天狗（おんみつこてんぐ）（42）

中川雨之氏作　近藤鐵氏畵

深まる謎

『へい、どうも、こんなにどつさり頂戴して有難うございます。合棒お禮だ』

『當お屋敷の腰元衆に違ひない、よけいなことを、世間で言觸、すど、承知しなそ』

『へい〳〵、そ〳〵も〳〵丈夫でござんして』

武士と、駕籠屋の間答を、駒路は夢のやうに聞いてゐた

『お待たせゐたしました。さあ、どうぞ』

武士は、何處までも丁寧、少しも禮儀は失はない。反つてそれが。駒路には。不氣味でもあつた。けれど今になつては、只温和しく武士の後に、隨つて行くよりほかはなかつた

玄關前を通つて、右側庭を二三間も來ると、其處に一つの小門が、彼女等を待ち構へるやうに、あだいふに扉が開いて居た

小門からまた少しお長屋と、屋敷の板塀の間の通路を行くと、高い窓越しに灯の射して居る處がお臺所であつた

駒路は。其處から奧へ連れられて行つた。彼女は。最前からの時刻を、やつと胸算で考へてみて大方四刻半を過ぎた頃だらうと思つた

お臺所を上ると、間もなく、今までの武士の姿の何處かへ消えてしまつたことに氣がついた。駒路は急、獨りぼつちの不安を覺えさせられた

代りに、部屋の若侍らしいのが現はれた

案内されたその部屋は、廊下脇の小座敷で。ガランと片づいた室內を。行燈の火がおぼろに照して居た

『暫らくお待ら下さ』

と、言ひ置いて、若侍は去らうとした

『あの、暫らく、どうぞ』

思はず駒路は呼び止めたのである

『は、なにか、御用ですか』

若侍は、部屋の出口の處で、立ち留まつた

その時、廊下に足音が聞えて來た。それを好い機とも思つたらしく、若侍は逃げるやうにサッサと行てしまつた

代つて這入つて來たのは一人の老人であつた。侍女とでも見ねば、自ら人品備はつて、四十餘りの。灯で見る姿は、柔和で貧雅らしい女であつた

『あなた、さぞ吃驚なすつでせうが、安心なさい。殿樣は、あなたの爲を思つていろ〳〵遊ばすのですから』

老女は駒路のそばへ差寄つて、その肩に手を懸けんばかりにして優しくいたはるのであつた

『あの。——殿樣と仰せになりますと——？』

と、駒路は、遠慮しい〳〵訊ねるのであつた

『あア。あなたは、それまで御存知無かつたのですか、あわたしとしたことが、殿樣の御名、申上げてよいやら惡いやら、お困り』

と、老女は、口に手を押當てゝ屋敷者らしく淑しやかさで笑つた

こまちには、只だ謎が深まつて行くばかりだつた

老女に導かれて、駒路は奧へ進んだ。長い廊下である老女の照す雪洞の灯に染められる戸、襖天井。それが何處まで續いて兩人は。ただ死のやうな沈默の中をなどつて行く

駒路は、妖怪屋敷へでも來たやうに、ゾッとして、襟元に冷たいものを感じた

前に行く老女の後ろ姿までが、次第に怪く見ねて來た。此の方を向いたら、口が耳まで裂けてはゐるでないかと、脅えたりした

廣告

西東合會社の新製品
齒磨　齒刷子　石鹸
連鎖店にあり

明い電球は ※……※ 銃後の護り
トウランプ
國產

和洋
建具　家具　椅子　テーブル
其他裝飾品一般
御用命は迅速に御勞め致します。
製作販賣
諸官衙　學校　御用達
平市五丁目四
片寄製作店
片寄小彌太
電話四八四番
十五、六歳以上の見習徒弟募集
御希望の方は至急申込下さい。

旅舍　大平館
東京上野驛前　下谷郵便局横通角
電話下谷（83）六七七番
私は平市出身ですから特に鄕里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人　比佐棟雄

高久病院（電話五三二番）
平市田町
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科　小兒科　外科　花柳病科　耳鼻咽喉科
（看護婦至急募集）

吉田眼科醫院
醫學士　吉田久雄
平市紺屋町　電話六八番

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します。
福好工業合資會社
代表者　強口唯七郎
自動車部　電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します。

銃後の鍛へ……スポーツで
運動服裝
ランニングパンツ　半袖シャツ　アンダーシャツ　トレーニングシャツパンツ　野球ユニホーム　庭球ユニホーム
特賣
ス・フ混入なき品澤山有ます
お安く御賄ひ致します
有名なる理科學研究所製
理研防織ワイシャツ　特約販賣
柄行流行　六種
白無字　二、五〇均一
靴と運動具なら
なんでも豐富に揃つて居る
大塚へ
平市田町　電話七十七番
◆見習……募集

メガネ專門の店
メガネは絕對信用ある當店に先づ御相談下さい…………
平市本町二丁目　玉屋

獨特の珈琲とWINE
紳士の喫茶店
グリルバツカス
サービス料一割（外拜辭）
平市銀座通りTEL七〇二
◇……◇……◇……◇
女店員募集
年齡十七才位より廿五才位まで
月給四拾圓以上支給漸次昇給
待遇衣裳貸與食、
何の氣苦勞もなく朗に働ける固定給料です眞面目に働きたい方堅實な生活を望まれる方は至急御出下さい懇切に御指導致します

外科、內臓外科
エツキス光線科
新設　產婦人科
院長　安齋徹
醫學士　黑澤
平市田町
入院隨意
安齋醫院
電話四七五番

產婦人科專門
（病室完備、入院隨時）
平市南町五二
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番

各種工具類　現在庫品
中古各種レール　礦山用機械器具類
東京製中古旋盤
十二呎旋盤　九呎旋盤
八呎旋盤　六呎旋盤
六呎木工旋盤
中古十六吋セーパー
東京製中古
三十吋ボール盤
二十吋ボール盤
中古新品　石油發動機
十五馬力　七馬力
五馬力半　三馬力半
中古新品モーター
二十五馬力　十馬力
七馬力半　五馬力
三馬力　二馬力
一馬力
發電機船來品
四キロ　十キロ
四十五キロ
中古オーシントボンプ二種
船來ヒユガルポンプ
中古新品　口經八吋　同六吋
同四吋　同三吋
同二吋　同二インチ半
新品ハーチカルポンプ
口經十五吋半　九尺
十一吋半　九尺
十一吋半　六尺
コンクリ用鐵塔百二十尺
尺モノ
中古新形コンクリミキサー
六才撚　四才撚
ボイラーランカシャ式
コロニシユウ式
コロニシユ多管式各種
直經五尺　長廿尺
同　三尺　長八尺
同　四尺　十二尺
ボイラ用附屬品各種
トロ車輪中古新品
ゲージ
廿二吋　廿吋
廿四吋
チエンブロック
五噸巻　三噸巻
一噸巻
其他酸油製造壓縮機
豆粕粉碎機
瓶詰金栓付器
ハンマークラシヤ
口經十六吋　十三吋
ブレーキクラシヤ
口經十吋　四吋　七吋
中古濟接器具タンク
グライター其他
動力用丸砥石
角金敷
蜂ノ巣
箱萬力　立萬力
金引鋸機
鐵管切鋸機
各種メタル
各種プーレー
各種工具小道具類
鐵管斷機ソケト各種
バルブ・ヒツク
中古レール
十八封度　十六封度
十二封度　九封度
中古鐵管
八吋　六吋　二吋
一吋
其他工具礦山用機械器具在庫品アリ

鋼鐵機械
KS
井尻七三郎商店
二大製鐵會社特約店
海軍工廠御用達
福島縣平市鍛冶町十一
電話五二二番
荷受場　平市鍛冶町廿三番地
倉庫　九番地
御買上品精々御安く納品致します
御拂下品は精々御高値に買受ます

藤森の事務用品
タイプライターからペン先等に至るまで大小取まぜ『良い品』を『安くサービス』して居ります
どうぞ御引立の程を願上奉ります。
東邦タイプライター株式會社代理店
東邦タイピスト養成所福島縣支部
タイプライター　謄寫板　文房具　事務用品
平市銀座通り
藤森商會　事務用器
電話三七〇番
振替仙臺五一〇番

心忙しさを語るか 忘れ物昨年より増加
平驛の統計から時代を覗く

夏！心弛む

朝から晩、夜半迄のけだるさが生む遺失物殆と小綬み無き所が殖える季節に入り、今八謂テツシユアワー日の平驛待合室には最近の傾向である慌だ分としし、驛の空氣は、動もすれば極度の緊張から却つて反對に人を放心狀態に導いて物忘れをさせる。一年間の延べにして二百五十萬人の乘降を呑吐する市の大玄關平驛の昨十二年四月一日以降本年三月三十一日迄即ち昭和十二年に於ける置き忘れ遺し物の取扱の總數が實に二千六百四十九件、月二百二十件一日六件七分の平均に當つて居ると云ふ頻繁さである而して之等の物件は二週間程驛に保管して持ち主の申し出でを持ち、其の上一括して警察署へ廻送するがそうした頭には下げ戻しの請求が全然なく保管期間經了後の拂下げ代金は悉く國庫に歸屬してしまふ。今年も漸く日に迫る夏氣分から

帽子、水筒、手提袋、蔦年筆、紙入、蟇口、傘、風呂敷、洋傘等々が掲示されてあり、冬の襟巻、夏のカン／＼帽、洋傘等季節的の物を除き品目け前記種類のものが多い樣である。而して現下の非常時下に於ける人々の心構へが之の方面にどんなに反映してゐるかと云へば昨今二ヶ年に於ける四五分月を對照すると

年次	四月	五月
昨年	二五五	二四二
今年	三一〇	二八二

と時局柄一段緊張を加へてゐる筈の今年分が遙かに前年分を凌いでゐるのは其間何處から受くる心忙しさを物語るものか、一寸奇異な現象である

第五小學校の敷地交換交涉略完了
近く埋立てに着手か

平市ではさきに新川南田圃に第五小學校と平商の新築敷地を買收 小學校の分の埋立を了したが平商の方が新築(工費八萬圓)促進の必要に迫られたので埋立濟みの前記地域を平商敷地に變更し殘る地域は電柱移轉問題も容易に解決しないので平商敷地の西方八千百坪と交換する方針で過般來十五名の地主に對し『無條件交換』の交渉を進めて來たが大部分順調に進み、僅か一名の不承諾者を殘すだけとなつたので市では九日午後一時から委員會を開き最後の交渉を進めることゝなつた、何れ全部買收濟みの上埋立に着工、十四年度新築豫算にこれが新築費を計上する模樣である

空梅雨か 水不足に用心

郡下の田植も今月中下旬だ入梅を控へて空梅雨の模樣があり小名濱測候所では田植に際し水不足を來す恐れがあるらしいところから灌漑水のない處は充分注意を要すると各農家に警告を發した

公會堂寄附

公會堂寄附金は昨報の如く一萬一千圓を突破した其後の寄附者左の如し

(二日)＝殿瀬商店平支店 田中ハナ 青木秀次 鈴木彌太郎 山野湧陽 根本武雄
(四日)＝瀧口豊 國島廉輔 市原隆介 西脇健次郎 白土七太郎 植村喜一 遠藤淺香 愛澤良吉 石井重太郎 北川鶴吉 伊關房次
(五日)＝猪狩四郎 小野榮一 石川サク 木村淳 佐藤榮吉 大橋秀冬 酒井温夫 大河原ルイ 室橋玉吉 小野寺金雄 安孫子才三郎 白土德彌 星野庸治
(六日)＝四家久米治 鍋田三重 赤塚勇吉 高橋よし 關根新一郎 木村一郎 佐川八朗 森冥一 熊谷元孝 佐川三良 北村辰藏 田名網由藏 鈴木義忠 星野陽造
(七日)＝伊藤秀吉 平運輸 芹澤嘉彦 菊地德太郎 出佐藤幸太郎 多田井笑次郎 長榮重 佐藤誠 齊藤日吉 高橋一郎 有馬公一 佐藤繁次 志賀定 川崎文治 吉田五平 渡邊久 平辯護士會 五十嵐榮德 阿部康雄 佐藤商店
(計一、〇八四圓)

磐女生献金 おやつを節約

磐城高女寄宿生四十四名は間食を節約した四圓三十二錢を恤兵費として 逸見ヒサさんが代表して市役所へ寄託

寵兒 木炭自動車隊來平
來る十日 平署で講習會

ガソリン統制に伴つて『木炭自動車』を使への叫びがいま全國的に起つてゐる矢先き總元締の商工省が肝煎りの『木炭自動車全國行脚隊』は既報の如く愈よ十一日午後三時平市内に入るので平署ではこれを機會に管内自動車業者其他關係者を招いて同四時から同署會議室にこれが普及を目的としての講習、講演、座談會を開きその機運を促進することゝなり昨七日關係者に夫々通知した

自動車隊の一行は同夜市内に一泊、翌十二日午前六時出發仙台に向ふ豫定である

田村郷友會旗樹立 平市田村郷友會 會旗樹立式を十二日午前九時から縣社子鍬倉神社で、終つて懇親會

平市參事會 平市では近く參事會を開き市有地賣却其他數件附議

清野民報記者着任 野澤武職氏の後を承けて福島民報平支局長・清野庄吉郎氏は今八日着任各方面を歷訪就任の挨拶をした

全市民の警戒を望む 傳染病患者現在六名

飲食物や寢冷ねの注意など今年もそろ／＼傳染病警戒季に入つた。市の隔離病舍には現在既にチフス二名 猩紅熱三名 赤痢一名と合計六名の患者を收容中で目下の處幸にして激・殖えそうな氣配も見えぬが、昨年中最高二十八名を出した苦い經驗に鑑み、全市民は須く衞生上細心の注意を拂ふ

高久だより

委員會。。。平市土木委員會を八日午後一時から、公會堂委員會を九日午前九時から開き寄附募集其他に關し協議

下高久村八幡鈴木補釜さん一家六日村内のトップを切つて田植を終つた

0

小學校 四日生徒一同が出動、害虫驅除 農繁休業は六日から三週間

0

春蠶は天候に惠まれて順調に六、七日頃から上簇盛り

0

青年學校專業科專任教員並に村農會の導員に此程三阪村永山源三氏が任命された

陣中を聽く
(165)

江南の夏既に深く 屋外は百二十度內外

市內下平窪出身 鈴木與市君(信)

初夏の風に新綠滴る候となりました。銃後常に御高庇に浴し洵に感謝に堪へません。本日また珍らしい慰問品御送り下され御心盡し

い戰々小兵のみならず戰一同にも頒ちました。風味佳良にして舌皷を打ちました次第です、厚く御禮を申上げます。江南の夏も既に訪れて日中は大變に暑くなりました、華氏八十七度、屋外は百二十度位に昇ることもあります、蚊や蠅など

も澤山に發生して戰友を困らせてゐます。支那の兵隊と同じく蚊迄支那式ですよ、〇〇の戰況も漸く活潑となり本事變の掉尾を飾る大會戰丈けに敵も死に者狂ひです、でも旭旗の向ふ處鐵壁と雖も破らずに置きません、一日も早く捷報を故鄕の皆樣にお傳へすることを確信致して居ります。一面支那軍もよく皇軍を親しみ今では君ケ代から露營の歌など上手に歌へます、彼らの中には日本品を覺えるのに大努めです

東洋永遠の平和の爲の聖戰す 聽けば生れ出るものこそ四海同胞の悦びに滿ちた王道樂土でありませう益々御奉公に念を注ぐ覺悟です 相變らず御指導下さい、陣中多忙の爲め之で失禮致します。

酬ゆる覺悟

市内仲町出身 富岡信吾君

數々の御言葉恐縮の至りで御座います、前線遙々と時局に處し更に／＼奮闘努力以て御返答する覺悟あるのみです 第一線の艱難さる事乍長期抗戰に對應した第二段階の國家總動員に入つた今日勝つは、銃後の發展にあるを十二分に自覺する皆々樣の辛苦努力に對しては限り無き感謝を捧げると共に其の無事發展のみを日夜祈り續けて居ります。

惡くないぜ
凄い國鐵の賞與

國鐵の上半期のボーナスはこの十五日一齊にバラ撒かれる。平驛其他鐵道關係では何れも時局柄『浪費せず、つとめて貯蓄其他に……』と但書を附す筈でその額は未だ十三日迄はわからずであるがほゞ同額と見て驛長さんの十二、三割は動かないところと見られ、この外機關區、保線、檢車、車掌等を合算した總額はマァざつと四萬圓(數報は誤り)だからどうして惡くはないぜ！

鳴物入りの大宣傳
銃後の緊張、時間から 明後十日『時の記念日』

明後十日は時の記念日―銃後の緊張は『先づ時間嚴守』にあると市役所では當日朝の七時と正午の二回に消防、驛、片倉、…のサイレン及び市内の社寺院の鐘太皷で一齊に總員文字通・鳴物入りで市民の時間觀念を強調する

磐城理髮獻金 磐城學校では第七回目の理髮金十圓 淺水校長の名で平市役所へ寄託

苗代品評會 濱通三郡の苗代品評會は引續き審査のため縣農務課右會議師も出、双二郡を濟ませて八、九の兩日石城郡下の分を審査の上等級が決定される

深夜。。。戲れ。。。 赤井村高島礦坑の礦夫高木武(二二)は去る三日深更同礦長屋の高島某方に侵入、妻女(三〇)に挑みかかつたが未遂、平署へ

辭令

新任 石川 夏井川 三浦幸一郎
平 富岡 二瓶武治

同 同 井上英三
同 同 鈴木貞衞
猪苗代 平 村上保男
同 夏井川 大竹常雄
命頭書土木監督所勤務
夏井川 福島 長嶺正一
同 土木課 早川恆
同 須賀川 佐藤千代四郎
四倉 江名 鈴木五郎
命頭書改修事務所勤務
夏井川 志賀浪清
命磐城部土木課勤務
防疫務(衞生課) 木下甚一
命回春園勤務
平 熊耳了
同 山田嘉苗
依願解職(滿州國並に北支へ)

入用

一、少年工場員
小學卒業程度市内居住のもの、來談あれ
磐城新聞社

加藤木直親翁
物堅い寄附の記事を見て

赤井嶽男

親のあと目を繼ぐ場合、殘された借金でもあると、殆ど版で捺した樣に『限定相續』をする事程、取る段になると全然權利無き者迄が目の色變ねて狂奔するぞ反對に當然果さねばならぬ義務すら、之を免れるに就てはダンロップの如き心臟の強さを見せて居る人が蓋し極めて多い御時勢に、之ばかりは借金でも税金でも無く、親が任意に申し出た寄附を、先考の歿後われと買つて出て之を繼續し、完全に先考の遺志を果した昨報の加藤木直親翁である

0

――祖父の直親と云ふ人が、私の生れた處から程遠からぬ處の出で、若い時に江戸に出て劍道や柔道の……戶田流だと記憶する……免許皆傳を得て三春藩にお抱えとなつた關係上でもあらう、彼の父の周太郎さんも三春で生れ、三春で育つたもの如く、母も三春の藩家の出であつた――

之は佐々木修一氏(泉村出身)の『あめりか生活』の『蠶友を訪ねて』に出て居る加藤木家の氏素性で、約束事は必ず果さねばならぬ――と云ふ直親翁や後に周太郎から襲名した第二世の直親翁の古武士の樣な物堅さは、秋霜の如き嚴格そのものゝ家風か、培はれたものと見て大差あるまい

0

直親翁が記者の亡父と共に當時に於ける記者の寓いはらき支局を訪れたのはたしか昭和三年頃、今から一昔の前である。その時既に古稀に近い鑁鑠たる洋服姿の翁を迎へた自分は父の紹介で色々樺太の話などをしたのであつたが翌四年の正月サンフランシスコから

老生客年十二月七日横濱出帆同月二十一日當地に參り同地にて新年を迎へ申候(七十六歲)併し幸に壯健二三ヶ月各地を見物の上ホノルヽに滯在四月頃歸る豫定に候

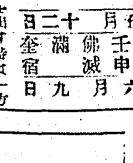
とある年賀狀に接して壯者を凌ぐ翁の健在を祝福したが而も MR T KASHIWAGI TOKYO JAPAN の宛名すら何等凝滯の跡なくすら／＼と記されてあつたなど何處迄もなみの年寄りと異つた翁ではある

0

翁は今を時めく萬國博の出品部長として世紀の脚光を受けて躍る既記保次氏の兄である逸郎氏が昭和七年の秋所サンマテオに程近きスンペンスーの海で釣魚中横波を食つた船の顚覆に因り非業の死を遂げて以來一層慈光圓滿な佛陀の聖訓に雨の如き思慕を感じ、落[illegible]鳥居公の眠る市内胡摩澤長源寺畔に土と親しみ乍ら恬淡禪僧の如き餘生を送つて居る事を耳にし、平常蜜煩の音問を怠つて居る自分の罪を悔いたのであつた。翁の晩年のより平和ならん事を祈る

九日

(小名濱測候所發表)
滿潮 前〇、四五 一三、一五
干潮 前八、二〇 後九、〇〇



木曜 五月十二日 壬申 佛滅 奎宿 六月九日

▲一白 八方へ手を出す時は一方も滿足にならぬ日▲二黑 目上の者と意見の合はざる事起りやすき日▲三碧 意外の幸運に見舞はることあり、進みて吉▲四綠 氣を和らげ長者を敬すれば衣引立てを受く▲五黃 心定まり内盛へける來事は愛よるに及ばず▲六白 午前の吉は一時のこと午後の樂となるべし▲七赤 我意を通さず萬事目上の人の言に從へば吉▲八白 かん言を以ていさない來るとも決して乘るべからず▲九紫 虚榮の爲に徒勞し業務に怠りを生じ易き日

御會葬御禮
六月八日
石川律

耳鼻咽喉科專門
平市南町一六番地
大和田醫院
電一七〇番
(入院隨意 病室完備)

レストラン サロン
食事 喫茶 酒場を兼ねた
平 田町 電 三五二

看護婦至急募集
(委細面談)
高柳醫院

株は一株から、債券一枚より賣買致します
常陽證券株式會社
水戸市泉町二丁目 電話二四〇 六〇一番 一五八二
平支店 福島縣平市三丁目 電話七八四・七八五
高萩支店 多賀郡高萩町(電話一一九番)
大子支店 久慈郡大子町(電話二九番)

產科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院
平市田町(元合津醫院跡) 電話五五九番